

思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

学び合いを通して目指す子どもの姿



「よし、同じだ。これでいいんだ」
 「そうそう、そうなんだよ」
 「あれ、なんか違うな。なぜだ？」
 「ということは、こういうことか」
 「もしかしたら、こうかもしれない」
 「だったら、こうしたらどうかな」

(確 信)
 (共 感)
 (吟 味)
 (再構築)
 (推 理)
 (創 意)

仲間と考えを共有したり、吟味したりすることを通して自分自身の中で対話が生まれ、新たな自分の考えをつくり出すことが学び合いの目的です。

教師のコーディネート

大切にしたい基本

発 問：目指す子どもの姿を想定して中心発問を吟味する。

学習活動：子どもの意識の流れに沿った学習活動を工夫する。

机間指導：子どもの考えを的確に見取って学び合いの見通しをもつ。

『〇〇さんの考えから入って、
 □□さんの考えを関わらせて深め、
 △△という考えに着地させよう』

学び合いを可視化・活性化

【板書で】

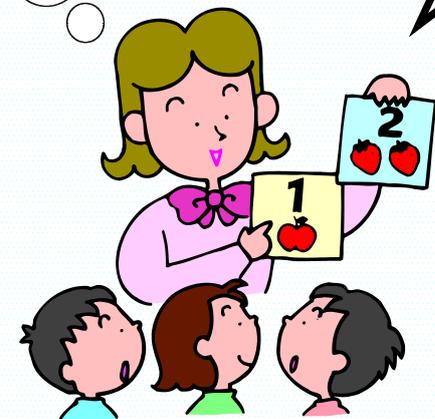
- 話し合いの論点や視点を示す。
- 板書で思考を刺激して深める。
 (書く位置、空白の部分、色チョーク文字の大きさ、心情曲線 など)

【ツールで】

- ミニホワイトボード、付箋、短冊等で考えや発言を類型化する。
- ノート等を見せながら伝え合ったり、話し合ったりする。
- 思考ツール(ベン図や各種チャート等)を活用する。

教師の言葉かけ

- ◎ **考えをつなぐ言葉かけ**
 「～さんの良いところはどこですか」 (発見)
 「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」 (推測)
 「～さんの考えはどういうことですか」 (要約)
 「～さんの考えの続きが分かりますか」 (予想)
 「～さんの気持ちが分かりますか」 (共感)
 「ヒントが言えますか」 (補助)
 「～さんの説明をもう一度言えますか」 (再生)
- ◎ **論理的思考力を刺激するつなぎ言葉**
 「だとしたら…」 「たとえば…」 (膨らます)
 「つまり…」 「…をもとにすると」 (深める)
 「もしかすると…」 「でも…」 (広める)



「聴き方」も大切！ほめて育てましょう こんな「聴き方」を称賛して伸ばしましょう

- ◎ しっかり聴いて反応している。
 - ・ うなづく
 - ・ 首をかしげる
 - ・ 目を見開く 等
- ◎ 参考になる内容をメモしている。
- ◎ 発言や発表の内容を確かめている。
 「たとえば～ということですか？」
- ◎ 説明者にアドバイスしている。



「聴くこと」は「学び合い」の基盤です

グループ学習の目的は？

- ◎ **練り上げてよりよい意見にする。**
 - ・ 考えを深める場面
 - ・ 対比させて考える場面
 - ・ 1つの作業をもとに考える場面
- ◎ **出てきた多様な考えを整理する。**
 - ・ 多面的な思考が可能な場面
 - ・ 多様な解釈が必要な場面
 - ・ 多くの発想を出させる場面
- ◎ **みんなが「できる・わかる」ようにする。**
 - ・ 技能を習得する場面
 - ・ 疑問を解消する場面

子ども主体の学び合いで思考力を高める

こんなやりとりに
なっていませんか？



教師：実験から何が分かった？
 生徒A：電力は電圧の大きさに比例します。
 教師：他にないかな？
 生徒B：電流の大きさにも比例します。
 教師：じゃあ式で表すと？
 生徒A：電力＝電圧×電流で表せます。
 教師：そうだね。みんな、いいかな？
 A・B：は～い！

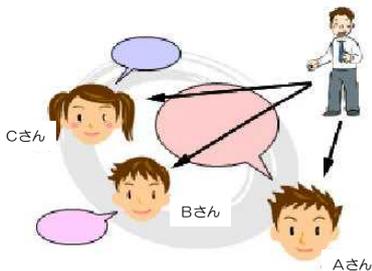


生徒C：よく分からないけど…まあいいか。

一問一答型では、指名されなかった子どもが「傍観者」として時間を過ごすことになりがちです。子どもの実態を踏まえつつ、子ども主体の学び合いの中で一人一人の思考力を高めることを目指して教師のコーディネートを見直してみましょう。

教師のコーディネート例

意図的指名型

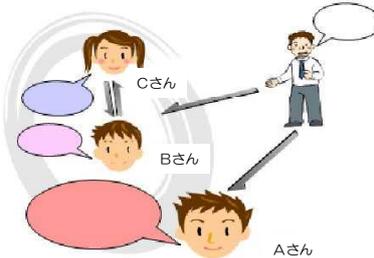


一人一人の考えを把握し、それをどのように組み合わせるかを考え指名する。
 個人の考えを広げたいときや練り上げて深めたいときに行う。

【発問の例】

- (似た考えの) Bさんは、Aさんが、そう考えた理由を言えますか。
- (違う考えの) Cさんは、二人の考えをどう思いますか。

ペア対話型

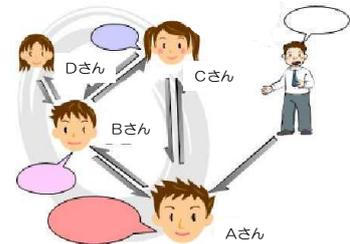


全員に理解させたい大切な部分で行う。隣同士で互いに説明したり相談したりする。再生させることで、より確かな定着を図る。
 内容によってはペアでなく小集団で行ってもよい。

【発問の例】

- Aさんが言ったことをお互いに説明してみましょう。
- Aさんの意見についてどう思うか、お互いに自分の考えを言ってみましょう。

子ども主体練り上げ型



教師の問いかけに子どもが自主的に考えを出し合う。教師は調整役になる。

「意図的指名」や「ペア対話」による学習を経験し、そのよさを実感することで実現できる。

【発問の例】

- みんなは、Aさんの考えをどう思いますか。
- Aさんの考えを踏まえると、どのような結論が得られるでしょうか。

授業の中では、これらを瞬時に
行うことが求められます。

常に「よく聴く」ことを心がけ、どのように
「つなぐ・もどす」かを考えましょう。

コーディネートの流れ

把握

授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話の聞いているときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞いているときの姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿がなぜ生じているのか、その原因を考える。授業の進み方、説明の理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像してみる。

選択

もう一度説明するのか、子どもを指名して説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。指導の手立てを多くもっている必要がある。

実行

どのような言葉で発問・指示するか、誰を指名するか等の配慮をしながら次の指導を実行する。